



# VLAN

---

- [clear vtp counters](#) (2 ページ)
- [debug platform vlan](#) (3 ページ)
- [debug sw-vlan](#) (4 ページ)
- [debug sw-vlan ifs](#) (6 ページ)
- [debug sw-vlan notification](#) (7 ページ)
- [debug sw-vlan vtp](#) (9 ページ)
- [interface vlan](#) (11 ページ)
- [show platform vlan](#) (13 ページ)
- [show vlan](#) (14 ページ)
- [show vtp](#) (17 ページ)
- [switchport priority extend](#) (25 ページ)
- [switchport trunk](#) (27 ページ)
- [switchport voice vlan](#) (30 ページ)
- [vlan](#) (33 ページ)
- [vtp \(グローバル コンフィギュレーション\)](#) (41 ページ)
- [vtp \(インターフェイス コンフィギュレーション\)](#) (47 ページ)
- [vtp primary](#) (48 ページ)

## clear vtp counters

VLAN Trunking Protocol (VTP) およびプルーニングカウンタをクリアするには、特権 EXEC モードで **clear vtp counters** コマンドを使用します。

### clear vtp counters

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

なし

#### コマンド モード

特権 EXEC

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

次の例では、VTP カウンタをクリアする方法を示します。

```
Device# clear vtp counters
```

情報が削除されたことを確認するには、**show vtp counters** 特権 EXEC コマンドを入力します。

## debug platform vlan

VLAN マネージャソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug platform vlan** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### 構文の説明

**error** VLAN エラー デバッグ メッセージを表示します。

**mvid** マッピングされた VLAN ID の割り当ておよびフリー デバッグ メッセージを表示します。

**rpc** リモート プロシージャ コール (RPC) デバッグ メッセージを表示します。

### コマンド デフォルト

デバッグはディセーブルです。

### コマンド モード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

**undebg platform vlan** コマンドは **no debug platform vlan** コマンドと同じです。

次の例では、VLAN エラー デバッグ メッセージを表示する方法を示します。

```
Device# debug platform vlan error
```

## debug sw-vlan

VLAN マネージャアクティビティのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug sw-vlan** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan {badpmcookies | cfg-vlan {bootup | cli} | events | ifs | mapping | notification | packets
| redundancy | registries | vtp}
no debug sw-vlan {badpmcookies | cfg-vlan {bootup | cli} | events | ifs | mapping | notification |
packets | redundancy | registries | vtp}
```

### 構文の説明

<b>badpmcookies</b>	不良ポート マネージャクッキーの VLAN マネージャ インシデントに関するデバッグ メッセージを表示します。
<b>cfg-vlan</b>	VLAN 設定デバッグ メッセージを表示します。
<b>bootup</b>	スイッチが起動すると、メッセージが表示されます。
<b>cli</b>	コマンドライン インターフェイス (CLI) が VLAN コンフィギュレーション モードである場合のメッセージを表示します。
<b>events</b>	VLAN マネージャ イベントのデバッグ メッセージを表示します。
<b>ifs</b>	VLAN マネージャ IOS ファイルシステム (IFS) のデバッグ メッセージを表示します。
<b>mapping</b>	VLAN マッピングのデバッグ メッセージを表示します。
<b>notification</b>	VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>packets</b>	パケット処理およびカプセル化プロセスのデバッグ メッセージを表示します。
<b>redundancy</b>	VTP VLAN 冗長性のデバッグ メッセージを表示します。
<b>registries</b>	VLAN マネージャ レジストリのデバッグ メッセージを表示します。
<b>vtp</b>	VLAN Trunking Protocol (VTP) コードのデバッグ メッセージを表示します。

### コマンド デフォルト

デバッグはディセーブルです。

### コマンド モード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

**undebug sw-vlan** コマンドは **no debug sw-vlan** コマンドと同じです。

次に、VLAN マネージャ イベントのデバッグ メッセージを表示する例を示します。

```
Device# debug sw-vlan events
```

## debug sw-vlan ifs

VLAN マネージャ IOS File System (IFS) エラーテストのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug sw-vlan ifs** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan ifs {open {read | write} | read {1 | 2 | 3 | 4} | write}
no debug sw-vlan ifs {open {read | write} | read {1 | 2 | 3 | 4} | write}
```

### 構文の説明

<b>open read</b>	VLAN マネージャ IFS ファイル読み取り動作のデバッグメッセージを表示します。
<b>open write</b>	VLAN マネージャ IFS ファイル書き込み動作のデバッグメッセージを表示します。
<b>read</b>	指定されたエラーテスト ( <b>1</b> 、 <b>2</b> 、 <b>3</b> 、または <b>4</b> ) に関するファイル読み取り動作のデバッグメッセージを表示します。
<b>write</b>	ファイル書き込み動作のデバッグメッセージを表示します。

### コマンド デフォルト

デバッグはディセーブルです。

### コマンド モード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

**undebug sw-vlan ifs** コマンドは **no debug sw-vlan ifs** コマンドと同じです。

ファイルの読み取り処理に処理 **1** を選択すると、ヘッダー検証ワードおよびファイルバージョン番号が格納されたファイルヘッダーが読み込まれます。処理 **2** を指定すると、ドメインおよび VLAN 情報の大部分が格納されたファイル本体が読み取られます。処理 **3** を指定すると、Type Length Version (TLV) 記述子構造が読み取られます。処理 **4** を指定すると、TLV データが読み取られます。

次の例では、ファイル書き込み動作のデバッグメッセージを表示する方法を示します。

```
Device# debug sw-vlan ifs write
```

## debug sw-vlan notification

VLAN マネージャ通知のデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug sw-vlan notification** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan notification {accfwdchange | allowedvlanfgchange | fwdchange | linkchange |
modechange | pruningcfgchange | statechange}
no debug sw-vlan notification {accfwdchange | allowedvlanfgchange | fwdchange | linkchange |
modechange | pruningcfgchange | statechange}
```

### 構文の説明

<b>accfwdchange</b>	集約アクセス インターフェイス スパニングツリー転送変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>allowedvlanfgchange</b>	許可 VLAN の設定変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>fwdchange</b>	スパニングツリー転送変更に関する VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>linkchange</b>	インターフェイスリンクステート変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>modechange</b>	インターフェイス モード変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>pruningcfgchange</b>	ブルーニング設定変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。
<b>statechange</b>	インターフェイス ステート変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示します。

コマンド デフォルト      デバッグはディセーブルです。

コマンド モード          特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン      **undebug sw-vlan notification** コマンドは **no debug sw-vlan notification** コマンドと同じです。

次に、インターフェイス モード変更の VLAN マネージャ通知のデバッグ メッセージを表示する例を示します。

```
Device# debug sw-vlan notification
```



## debug sw-vlan vtp

VLAN Trunking Protocol (VTP) コードのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug sw-vlan vtp** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug sw-vlan vtp {events | packets | pruning [{packets | xmit}] | redundancy | xmit}
no debug sw-vlan vtp {events | packets | pruning | redundancy | xmit}
```

### 構文の説明

<b>events</b>	汎用の論理フローのデバッグメッセージおよびVTPコード内のVTP_LOG_RUNTIME マクロによって生成されたVTPメッセージの詳細を表示します。
<b>packets</b>	Cisco IOS VTP プラットフォーム依存層からVTPコードに渡されたすべての着信VTPパケット（プルーニングパケットを除く）の内容のデバッグメッセージを表示します。
<b>pruning</b>	VTPコードのプルーニングセグメントによって生成されるデバッグメッセージを表示します。
<b>packets</b>	（任意）Cisco IOS VTP プラットフォーム依存層からVTPコードに渡されたすべての着信VTPプルーニングパケットの内容のデバッグメッセージを表示します。
<b>xmit</b>	（任意）VTPコードがCisco IOS VTP プラットフォーム依存層に送信するように要求したすべての発信VTPパケットの内容のデバッグメッセージを表示します。
<b>redundancy</b>	VTP冗長性のデバッグメッセージを表示します。
<b>xmit</b>	VTPコードがCisco IOS VTP プラットフォーム依存層に送信するように要求したすべての発信VTPパケット（プルーニングパケットを除く）の内容のデバッグメッセージを表示します。

**コマンドデフォルト** デバッグはディセーブルです。

**コマンドモード** 特権 EXEC

**コマンド履歴**

リリース	変更内容
Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** **undebug sw-vlan vtp** コマンドは **no debug sw-vlan vtp** コマンドと同じです。

**pruning** キーワードの後に追加のパラメータを入力しない場合は、VTPプルーニングデバッグメッセージが表示されます。これらのメッセージは、VTPプルーニングコード内の

VTP\_PRUNING\_LOG\_NOTICE、VTP\_PRUNING\_LOG\_INFO、VTP\_PRUNING\_LOG\_DEBUG、VTP\_PRUNING\_LOG\_ALERT、および VTP\_PRUNING\_LOG\_WARNING マクロによって生成されます。

次に、VTP 冗長性のデバッグ メッセージを表示する例を示します。

```
Device# debug sw-vlan vtp redundancy
```

## interface vlan

ダイナミック スイッチ仮想インターフェイス (SVI) を作成するか、既存のダイナミック SVI にアクセスし、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **interface vlan** コマンドを使用します。SVI を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface vlan vlan-id
no interface vlan vlan-id
```

構文の説明	<i>vlan-id</i>	VLAN 番号。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。
コマンド デフォルト	デフォルトの VLAN インターフェイスは VLAN 1 です。	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** SVI は、特定の VLAN に対して最初に **interface vlan *vlan-id*** コマンドを入力したときに作成されます。*vlan-id* は、ISL または IEEE 802.1Q カプセル化トランク上のデータ フレームに対応する VLAN タグ、あるいはアクセス ポート用に設定された VLAN ID に対応します。

SVI は、特定の VLAN に対して最初に **interface vlan *vlan-id*** コマンドを入力したときに作成されます。*vlan-id* は、IEEE 802.1Q カプセル化トランク上のデータ フレームに対応する VLAN タグ、またはアクセス ポート用に設定された VLAN ID に対応します。



(注) 物理ポートと関連付けられていない場合、SVI を作成してもアクティブにはなりません。

**no interface vlan *vlan-id*** コマンドを使用して削除した SVI は、**show interfaces** 特権 EXEC コマンドの出力に表示されなくなります。



(注) VLAN 1 インターフェイスを削除することはできません。

削除されたインターフェイスに対して **interface vlan *vlan-id*** コマンドを入力すると、削除された SVI を元に戻すことができます。インターフェイスはバックアップとなりますが、それまでの設定は削除されます。

スイッチまたはスイッチ スタック上で設定された SVI の数と、設定された他の機能の数の相互関係によっては、ハードウェア制限により、CPU 使用率に影響が出る可能性があります。

**sdm prefer** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して、システムのハードウェアリソースを、テンプレートおよび機能テーブルに基づいて再度割り当てることができます。

設定を確認するには、**show interfaces** および **show interfaces vlan *vlan-id*** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次の例では、VLANID23の新しいSVIを作成し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始する方法を示します。

```
Device(config)# interface vlan 23  
Device(config-if)#
```

## show platform vlan

プラットフォーム依存 VLAN 情報を表示するには、**show platform vlan** 特権 EXEC コマンドを使用します。

**show platform vlan** {**misc** | **mvid** | **prune** | **refcount** | **rpc** {**receive** | **transmit**}}

### 構文の説明

<b>misc</b>	各種 VLAN モジュール情報を表示します。
<b>mvid</b>	Mapped VLAN ID (MVID) 割り当て情報を表示します。
<b>prune</b>	スタックまたはプラットフォームで維持されるプルーニング データベースを表示します。
<b>refcount</b>	VLAN ロック モジュールについてのリファレンス カウントを表示します。
<b>rpc</b>	リモート プロシージャ コール (RPC) メッセージを表示します。
<b>receive</b>	受信された情報を表示します。
<b>transmit</b>	送信された情報を表示します。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、テクニカルサポート担当者とともに問題解決を行う場合にだけ使用してください。テクニカルサポート担当者がこのコマンドの使用を推奨した場合以外には使用しないでください。

次の例では、リモートプロシージャコール (RPC) メッセージを表示する方法を示します。

```
Device# show platform vlan rpc
```

## show vlan

設定されたすべての VLAN またはスイッチ上の 1 つの VLAN (VLAN ID または名前を指定した場合) のパラメータを表示するには、特権 EXEC モードで **show vlan** コマンドを使用します。

**show vlan** [{**brief** | **group** | **id** *vlan-id* | **mtu** | **name** *vlan-name* | **remote-span** | **summary**}]

構文の説明		
	<b>brief</b>	(任意) VLAN ごとに VLAN 名、ステータス、およびポートを 1 行で表示します。
	<b>group</b>	(任意) VLAN グループについての情報を表示します。
	<b>id</b> <i>vlan-id</i>	(任意) VLAN ID 番号で特定された 1 つの VLAN に関する情報を表示します。 <i>vlan-id</i> に指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。
	<b>mtu</b>	(任意) VLAN のリストと、VLAN のポートに設定されている最小および最大伝送単位 (MTU) サイズを表示します。
	<b>name</b> <i>vlan-name</i>	(任意) VLAN 名で特定された 1 つの VLAN に関する情報を表示します。 VLAN 名は、1 ~ 32 文字の ASCII 文字列です。
	<b>remote-span</b>	(任意) Remote SPAN (RSPAN) VLAN に関する情報を表示します。
	<b>summary</b>	(任意) VLAN サマリー情報を表示します。



(注) **ifindex** キーワードは、コマンドラインのヘルプ スtring に表示されますが、サポートされていません。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード ユーザ EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** **show vlan mtu** コマンド出力では、MTU\_Mismatch 列に VLAN 内のすべてのポートに同じ MTU があるかどうかを示します。この列に **yes** が表示されている場合、VLAN の各ポートに別々の MTU があり、パケットが、大きい MTU を持つポートから小さい MTU を持つポートにスイッ

チングされると、ドロップされることがあります。VLANにSVIがない場合、ハイフン (-) 記号がSVI\_MTU列に表示されます。MTU-Mismatch列にyesが表示されている場合、MiniMTUとMaxMTUを持つポート名が表示されます。

次に、**show vlan** コマンドの出力例を示します。次の表に、この出力で表示されるフィールドについて説明します。

```
Device > show vlan
VLAN Name                               Status      Ports
-----
1    default                               active     Gi1/0/2, Gi1/0/3, Gi1/0/4
                                           Gi1/0/5, Gi1/0/6, Gi1/0/7
                                           Gi1/0/8, Gi1/0/9, Gi1/0/10
                                           Gi1/0/11, Gi1/0/12, Gi1/0/13
                                           Gi1/0/14, Gi1/0/15, Gi1/0/16
                                           Gi1/0/17, Gi1/0/18, Gi1/0/19
                                           Gi1/0/20, Gi1/0/21, Gi1/0/22
                                           Gi1/0/23, Gi1/0/24, Gi1/0/25
                                           Gi1/0/26, Gi1/0/27, Gi1/0/28
                                           Gi1/0/29, Gi1/0/30, Gi1/0/31
                                           Gi1/0/32, Gi1/0/33, Gi1/0/34
                                           Gi1/0/35, Gi1/0/36, Gi1/0/37
                                           Gi1/0/38, Gi1/0/39, Gi1/0/40
                                           Gi1/0/41, Gi1/0/42, Gi1/0/43
                                           Gi1/0/44, Gi1/0/45, Gi1/0/46
                                           Gi1/0/47, Gi1/0/48

2    VLAN0002                               active
40   vlan-40                                 active
300  VLAN0300                                active
1002 fddi-default                           act/unsup
1003 token-ring-default                   act/unsup
1004 fddinet-default                     act/unsup
1005 trnet-default                       act/unsup

VLAN Type  SAID      MTU   Parent  RingNo  BridgeNo  Stp  BrdgMode  Trans1  Trans2
-----
1    enet  100001   1500  -       -       -       -   -         0      0
2    enet  100002   1500  -       -       -       -   -         0      0
40   enet  100040   1500  -       -       -       -   -         0      0
300  enet  100300   1500  -       -       -       -   -         0      0
1002 fddi  101002   1500  -       -       -       -   -         0      0
1003 tr   101003   1500  -       -       -       -   -         0      0
1004 fdnet 101004   1500  -       -       -       ieee -         0      0
1005 trnet 101005   1500  -       -       -       ibm  -         0      0
2000 enet  102000   1500  -       -       -       -   -         0      0
3000 enet  103000   1500  -       -       -       -   -         0      0

Remote SPAN VLANs
-----
2000,3000

Primary Secondary Type           Ports
-----
```

表 1: **show vlan** コマンドの出力フィールド

フィールド	説明
VLAN	VLAN 番号。

フィールド	説明
Name	VLAN の名前 (設定されている場合)。
Status	VLAN のステータス (active または suspend)。
Ports	VLAN に属するポート。
Type	VLAN のメディア タイプ。
SAID	VLAN のセキュリティ アソシエーション ID 値。
MTU	VLAN の最大伝送単位サイズ。
Parent	親 VLAN (存在する場合)。
RingNo	VLAN のリング番号 (該当する場合)。
BrdgNo	VLAN のブリッジ番号 (該当する場合)。
Stp	VLAN で使用されるスパニングツリープロトコルタイプ。
BrdgMode	この VLAN のブリッジングモード: 可能な値はソースルートブリッジング (SRB) およびソースルートトランスペアレント (SRT) で、デフォルトは SRB です。
Trans1	トランスレーションブリッジ 1。
Trans2	トランスレーションブリッジ 2。
Remote SPAN VLANs	設定されている RSPAN VLAN を識別します。

次に、**show vlan summary** コマンドの出力例を示します。

```
Device > show vlan summary
Number of existing VLANs           : 45
Number of existing VTP VLANs      : 45
Number of existing extended VLANs : 0
```

次に、**show vlan id** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show vlan id 2
VLAN Name                Status    Ports
-----
2    VLAN0200                active   Gi1/0/7, Gi1/0/8
2    VLAN0200                active   Gi2/0/1, Gi2/0/2

VLAN Type  SAID      MTU    Parent RingNo BridgeNo Stp  BrdgMode Trans1 Trans2
-----
2    enet    100002   1500  -      -      -    -    -      0      0

Remote SPAN VLANs
-----
Disabled
```



## show vtp

VLAN Trunking Protocol (VTP) 管理ドメイン、ステータス、およびカウンタに関する一般情報を表示するには、EXEC モードで **show vtp** コマンドを使用します。

**show vtp** {**counters** | **devices** [**conflicts**] | **interface** [*interface-id*] | **password** | **status**}

構文の説明		
	<b>counters</b>	デバイスの VTP 統計情報を表示します。
	<b>devices</b>	ドメイン内のすべての VTP バージョン 3 デバイスに関する情報を表示します。このキーワードは、デバイスが VTP バージョン 3 を実行していない場合だけ適用されます。
	<b>conflicts</b>	(任意) 競合するプライマリ サーバを持つ VTP バージョン 3 デバイスに関する情報を表示します。デバイスが VTP トランスポートモードまたは VTP オフモードにある場合、このコマンドは無視されます。
	<b>interface</b>	すべてのインターフェイスまたは指定されたインターフェイスに対する VTP のステータスおよび設定を表示します。
	<i>interface-id</i>	(任意) VTP ステータスおよび設定を表示するインターフェイス。ここには物理インターフェイスまたはポートチャネルを指定できます。
	<b>password</b>	設定された VTP パスワードを表示します (特権 EXEC モードでのみ使用可能)。
	<b>status</b>	VTP 管理ドメインのステータスに関する一般情報を表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード ユーザ EXEC  
特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン デバイスが VTP バージョン 3 を実行中に **show vtp password** コマンドを入力すると、表示は次のルールに従います。

- **password** *password* グローバル コンフィギュレーション コマンドで **hidden** キーワードを指定せず、デバイス上で暗号化がイネーブルでない場合、パスワードはクリアテキストで表示されます。

- **password password** コマンドで **hidden** キーワードを指定せず、デバイス上で暗号化がイネーブルの場合、暗号化されたパスワードが表示されます。
- **password password** コマンドに **hidden** キーワードが含まれていた場合、16進数の秘密キーが表示されます。

次に、**show vtp devices** コマンドの出力例を示します。**Conflict** 列の **Yes** は、応答するサーバがその機能のローカルサーバと競合していることを示します。つまり、同じドメイン内の2つのデバイスは、データベースに対して同じプライマリサーバを持ちません。

```
Device# show vtp devices
Retrieving information from the VTP domain. Waiting for 5 seconds.
VTP Database Conf Device ID      Primary Server Revision  System Name
-----
VLAN      Yes  00b0.8e50.d000 000c.0412.6300 12354      main.cisco.com
MST       No   00b0.8e50.d000 0004.AB45.6000 24         main.cisco.com
VLAN      Yes  000c.0412.6300=000c.0412.6300 67         qwerty.cisco.com
```

次に、**show vtp counters** コマンドの出力例を示します。次の表に、この出力で表示される各フィールドについて説明します。

```
Device> show vtp counters
VTP statistics:
Summary advertisements received      : 0
Subset advertisements received      : 0
Request advertisements received      : 0
Summary advertisements transmitted  : 0
Subset advertisements transmitted    : 0
Request advertisements transmitted   : 0
Number of config revision errors    : 0
Number of config digest errors      : 0
Number of V1 summary errors         : 0

VTP pruning statistics:

Trunk          Join Transmitted  Join Received      Summary advts received from
-----          -----          -----          non-pruning-capable device
Gi1/0/47       0                0                 0
Gi1/0/48       0                0                 0
Gi2/0/1        0                0                 0
Gi3/0/2        0                0                 0
```

表 2 : show vtp counters のフィールドの説明

フィールド	説明
Summary advertisements received	トランクポート上でこのデバイスが受信するサマリーアドバタイズメントの数。サマリーアドバタイズには、管理ドメイン名、コンフィギュレーションリビジョン番号、更新タイムスタンプと ID、認証チェックサム、および関連するサブセットアドバタイズメントの数が含まれます。
Subset advertisements received	トランクポート上でこのデバイスが受信するサブセットアドバタイズメントの数。サブセットアドバタイズには、1 つ以上の VLAN に関する情報がすべて含まれています。
Request advertisements received	トランクポート上でこのデバイスが受信するアドバタイズメント要求の数。アドバタイズメント要求は、通常、すべての VLAN に関する情報を要求します。また、VLAN のサブセットに関する情報も要求できます。
Summary advertisements transmitted	トランクポート上でこのデバイスが送信するサマリーアドバタイズメントの数。サマリーアドバタイズには、管理ドメイン名、コンフィギュレーションリビジョン番号、更新タイムスタンプと ID、認証チェックサム、および関連するサブセットアドバタイズメントの数が含まれます。
Subset advertisements transmitted	トランクポート上でこのデバイスが送信するサブセットアドバタイズメントの数。サブセットアドバタイズには、1 つ以上の VLAN に関する情報がすべて含まれています。
Request advertisements transmitted	トランクポート上でこのデバイスが送信するアドバタイズメント要求の数。アドバタイズメント要求は、通常、すべての VLAN に関する情報を要求します。また、VLAN のサブセットに関する情報も要求できます。

フィールド	説明
Number of configuration revision errors	<p>リビジョン エラーの数。</p> <p>新しい VLAN の定義、既存 VLAN の削除、中断、または再開、あるいは既存 VLAN のパラメータ変更を行うと、デバイスのコンフィギュレーション リビジョン番号が増加します。</p> <p>リビジョン番号がデバイスのリビジョン番号と一致するにもかかわらず、MD5 ダイジェスト値が一致しないアドバタイズメントをデバイスが受信すると、リビジョンエラーが増加します。このエラーは、2つのデバイスの VTP パスワードが異なるか、またはデバイスの設定が異なることを意味します。</p> <p>これらのエラーは、デバイスが受信アドバタイズメントをフィルタしていて、これにより VTP データベースがネットワーク全体で同期されていない状態になっていることを示しています。</p>
Number of configuration digest errors	<p>MD5 ダイジェスト エラーの数。</p> <p>サマリーパケット内の MD5 ダイジェストと、デバイスによって計算された受信済みアドバタイズメントの MD5 ダイジェストが一致しない場合は、ダイジェストエラーが増加します。このエラーは、通常、2つのデバイスの VTP パスワードが異なることを意味します。この問題を解決するには、すべてのデバイスで VTP パスワードが同じになるようにします。</p> <p>これらのエラーは、デバイスが受信アドバタイズメントをフィルタしていて、これにより VTP データベースがネットワーク全体で同期されていない状態になっていることを示しています。</p>

フィールド	説明
Number of V1 summary errors	バージョン 1 エラーの数。 VTP V2 モードのデバイスが VTP バージョン 1 フレームを受信すると、バージョン 1 サマリーエラーが増加します。これらのエラーは、少なくとも 1 つの近接デバイスで、V2 モードがディセーブルにされた VTP バージョン 1、または VTP バージョン 2 が実行されていることを示しています。この問題を解決するには、VTP V2 モードのデバイスの設定をディセーブルに変更します。
Join Transmitted	トランク上で送信された VTP プルーニングメッセージの数。
Join Received	トランク上で受信された VTP プルーニングメッセージの数。
Summary Advts Received from non-pruning-capable device	トランク上で受信された、プルーニングをサポートしていないデバイスからの VTP サマリーメッセージの数。

次に、**show vtp status** コマンドの出力例を示します。次の表に、この出力で表示される各フィールドについて説明します。

```
Device> show vtp status
VTP Version capable      : 1 to 3
VTP version running     : 1
VTP Domain Name         :
VTP Pruning Mode        : Disabled
VTP Traps Generation    : Disabled
Device ID                : 2037.06ce.3580
Configuration last modified by 192.168.1.1 at 10-10-12 04:34:02
Local updater ID is 192.168.1.1 on interface LIINO (first layer3 interface found
)

Feature VLAN:
-----
VTP Operating Mode      : Server
Maximum VLANs supported locally : 1005
Number of existing VLANs : 7
Configuration Revision  : 2
MD5 digest              : 0xA0 0xA1 0xFE 0x4E 0x7E 0x5D 0x97 0x41
                        : 0x89 0xB9 0x9B 0x70 0x03 0x61 0xE9 0x27
```

表 3: **show vtp status** のフィールドの説明

フィールド	説明
VTP Version capable	デバイス上で動作できる VTP バージョンを表示します。

フィールド	説明
VTP Version running	デバイス上で動作中の VTP バージョンを表示します。デフォルトでは、デバイスはバージョン 1 を実行しますが、バージョン 2 に設定することもできます。
VTP Domain Name	デバイスの管理ドメインを特定する名前。
VTP Pruning Mode	プルーンングがイネーブルかまたはディセーブルかを表示します。VTP サーバでプルーンングをイネーブルにすると、管理ドメイン全体でプルーンングが有効になります。プルーンングを使用すると、トラフィックが適切なネットワーク デバイスにアクセスするために使用しなければならないトランク リンクへのフラグディングトラフィックが制限されます。
VTP Traps Generation	VTP トラップをネットワーク管理ステーションに送信するかどうかを表示します。
Device ID	ローカル デバイスの MAC アドレスを表示します。
Configuration last modified	最後に行った設定変更の日付と時刻を表示します。データベースの設定変更の原因となったデバイスの IP アドレスを表示します。

フィールド	説明
VTP Operating Mode	<p>VTP 動作モード（サーバ、クライアント、またはトランスペアレント）を表示します。</p> <p><b>Server</b> : VTP サーバモードのデバイスは VTP に対してイネーブルであり、アドバタイズメントを送信します。スイッチで VLAN を設定できます。このデバイスを使用すると、起動後に、現在の VTP データベース内のすべての VLAN 情報を、NVRAM から復元できます。デフォルトでは、すべてのデバイスが VTP サーバです。</p> <p>(注) デバイスが設定を NVRAM に書き込んでいる間に障害を検出し、NVRAM が機能するまでサーバモードに戻ることができない場合、スイッチは VTP サーバモードから VTP クライアントモードに自動的に変わります。</p> <p><b>Client</b> : VTP クライアントモードのデバイスは VTP に対してイネーブルであり、アドバタイズメントを送信できますが、VLAN 設定を格納するために十分な不揮発性ストレージがありません。スイッチでは VLAN を設定できません。VTP クライアントが起動すると、VTP クライアントはその VLAN データベースを初期化するアドバタイズを受信するまで、VTP アドバタイズを送信しません。</p> <p><b>Transparent</b> : VTP トランスペアレントモードのデバイスは、VTP に対してディセーブルであり、アドバタイズメントの送信や、他のデバイスから送信されたアドバタイズメントの学習を行いません。また、ネットワーク内の他のデバイスの VLAN 設定にも影響しません。デバイスは VTP アドバタイズメントを受信し、アドバタイズメントを受信したトランクポートを除くすべてのトランクポートにこれを転送します。</p>
Maximum VLANs Supported Locally	ローカルにサポートされている VLAN の最大数。
Number of Existing VLANs	既存の VLAN 数。

フィールド	説明
Configuration Revision	このデバイスの現在のコンフィギュレーションリビジョン番号。
MD5 Digest	VTP 設定の 16 バイト チェックサム。

次の例では、VTP バージョン 3 を実行するデバイスに対する **show vtp status** コマンドの出力を示します。

```

Device# show vtp status
VTP Version capable      : 1 to 3
VTP version running      : 3
VTP Domain Name          : Cisco
VTP Pruning Mode         : Disabled
VTP Traps Generation     : Disabled
Device ID                 : 0cd9.9624.dd80

Feature VLAN:
-----
VTP Operating Mode       : Off
Number of existing VLANs : 11
Number of existing extended VLANs : 0
Maximum VLANs supported locally : 1005

Feature MST:
-----
VTP Operating Mode       : Transparent

Feature UNKNOWN:
-----
VTP Operating Mode       : Transparent

```



# switchport priority extend

着信したタグなしフレームのポートプライオリティ、または指定されたポートに接続された IP フォンが受信するフレームのプライオリティを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **switchport priority extend** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**switchport priority extend {cos value | trust}**  
**no switchport priority extend**

## 構文の説明

<b>cos value</b>	PC から受信したか、または指定した Class of Service (CoS) 値を持つ接続装置から受信した IEEE 802.1p プライオリティを上書きするよう IP Phone ポートを設定します。指定できる範囲は 0 ~ 7 です。7 が最も高いプライオリティです。デフォルトは 0 です。
<b>trust</b>	PC または接続装置から受信した IEEE 802.1p プライオリティを信頼するように IP Phone のポートを設定します。

## コマンド デフォルト

ポートで受信したタグなしフレームには、デフォルト ポート プライオリティは、CoS 値 0 で設定されています。

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

音声 VLAN をイネーブルにした場合、デバイスを設定して、Cisco Discovery Protocol (CDP) パケットを送信し、Cisco IP 電話のアクセスポートに接続される装置からデータパケットを送信する方法を IP 電話に指示できます。Cisco IP Phone に設定を送信するには、Cisco IP Phone に接続しているスイッチ ポートの CDP をイネーブルにする必要があります (デフォルトでは、CDP はすべてのデバイスインターフェイスでグローバルにイネーブルです)。

スイッチアクセスポート上で音声 VLAN を設定する必要があります。

音声 VLAN をイネーブルにする前に、**mls qos** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力してデバイス上で Quality of Service (QoS) をイネーブルに設定し、さらに **mls qos trust cos** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力してポートの信頼状態を **trust** に設定しておくことを推奨します。

次の例では、受信した IEEE 802.1p プライオリティを信頼するように、指定されたポートに接続された IP Phone を設定する方法を示します。

```
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/2
Device(config-if)# switchport priority extend trust
```

設定を確認するには、**show interfaces *interface-id* switchport** 特権 EXEC コマンドを入力します。

## switchport trunk

インターフェイスがトランキングモードの場合、トランクの特性を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **switchport trunk** コマンドを使用します。トランキング特性をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport trunk {allowed vlan vlan-list | native vlan vlan-id | pruning vlan vlan-list }
no switchport trunk {allowed vlan | native vlan | pruning vlan }
```

### 構文の説明

<b>allowed vlan</b> <i>vlan-list</i>	トランキングモードの場合に、このインターフェイス上でタグ付き形式のトラフィックを送受信できる許可 VLAN のリストを設定します。 <i>vlan-list</i> の選択については、「使用上のガイドライン」を参照してください。
<b>native vlan</b> <i>vlan-id</i>	インターフェイスが IEEE 802.1Q トランキングモードの場合に、タグなしトラフィックを送受信するようにネイティブ VLAN を設定します。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。
<b>pruning vlan</b> <i>vlan-list</i>	トランキングモードの場合に、VTP プルーニングに適格な VLAN のリストを設定します。 <i>vlan-list</i> の選択については、「使用上のガイドライン」を参照してください。

### コマンド デフォルト

VLAN 1 は、ポートのデフォルトのネイティブ VLAN ID です。  
すべての VLAN リストのデフォルトには、すべての VLAN が含まれます。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

*vlan-list* の形式は、**all | none | [add | remove | except] vlan-atom [,vlan-atom...]** です。:

- **all** 1 ~ 4094 のすべての VLAN を指定します。これはデフォルトです。このキーワードは、リストのすべての VLAN を同時に設定することを許可しないコマンド上では使用できません。
- **none** 空のリストを指定します。特定の VLAN を設定するか、または少なくとも 1 つの VLAN を設定する必要があるコマンドでは、このキーワードを使用できません。
- **add** リストを置き換えるのではなく、現在設定されている VLAN に VLAN の定義済みリストを追加します。有効な ID は 1 ~ 1005 です。場合によっては、拡張範囲 VLAN (VLAN ID が 1005 より上) を使用できます。



- (注) 許可 VLAN リストに拡張範囲 VLAN を追加できますが、プルーニング適格 VLAN リストには追加できません。

カンマを使い、連続しない VLAN ID を区切ります。ID の範囲を指定するには、ハイフンを使用します。

- **remove** リストを置き換えるのではなく、現在設定されている VLAN から VLAN の定義済みリストを削除します。有効な ID は 1 ～ 1005 です。場合によっては、拡張範囲 VLAN ID を使用できます。



- (注) 許可 VLAN リストから拡張範囲 VLAN を削除できますが、プルーニング適格リストからは削除できません。

- **except** 定義済み VLAN リスト以外の、計算する必要がある VLAN を示します（指定されている VLAN 以外の VLAN が追加されます）。有効な ID の範囲は 1 ～ 1005 です。カンマを使い、連続しない VLAN ID を区切ります。ID の範囲を指定するには、ハイフンを使用します。
- **vlan-atom** は、1 ～ 4094 内の単一の VLAN 番号、または 2 つの VLAN 番号で指定された連続した範囲の VLAN で、小さい方の値を先頭にハイフンで区切ります。

ネイティブ VLAN :

- IEEE 802.1Q トランク ポートで受信されたすべてのタグなしトラフィックは、ポートに設定されたネイティブ VLAN によって転送されます。
- パケットの VLAN ID が送信側ポートのネイティブ VLAN ID と同じであれば、そのパケットはタグなしで送信されます。ネイティブ VLAN ID と異なる場合は、スイッチはそのパケットをタグ付きで送信します。
- **native vlan** コマンドの **no** 形式は、ネイティブモード VLAN を、デバイスに適したデフォルト VLAN にリセットします。

許可 VLAN :

- スパニングツリーループまたはストームのリスクを減らすには、許可リストから VLAN 1 を削除して個々の VLAN トランク ポートの VLAN 1 をディセーブルにできます。トランク ポートから VLAN 1 を削除した場合、インターフェイスは管理トラフィック（Cisco Discovery Protocol (CDP)、ポート集約プロトコル (PAgP)、Link Aggregation Control Protocol (LACP)、ダイナミック トランッキング プロトコル (DTP)、および VLAN 1 の VLAN トランッキング プロトコル (VTP) ) を送受信し続けます。
- **allowed vlan** コマンドの **no** 形式は、リストをデフォルトリスト（すべての VLAN を許可）にリセットします。

トランク プルーニング :

- プルーニング適格リストは、トランク ポートだけに適用されます。
- トランク ポートごとに独自の適格リストがあります。
- VLANをプルーニングしない場合は、プルーニング適格リストから VLANを削除します。プルーニング不適格の VLAN は、フラッドイング トラフィックを受信します。
- VLAN 1、VLAN 1002 ~ 1005、および拡張範囲 VLAN (VLAN 1006 ~ 4094) は、プルーニングできません。

次の例では、すべてのタグなしトラフィックを送信するポートのデフォルトとして、VLAN 3 を設定する方法を示します。

```
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/2
Device(config-if)# switchport trunk native vlan 3
```

次の例では、許可リストに VLAN 1、2、5、および 6 を追加する方法を示します。

```
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/2
Device(config-if)# switchport trunk allowed vlan add 1,2,5,6
```

次の例では、プルーニング適格リストから VLAN 3 および 10 ~ 15 を削除する方法を示します。

```
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/2
Device(config-if)# switchport trunk pruning vlan remove 3,10-15
```

設定を確認するには、**show interfaces interface-id switchport** 特権 EXEC コマンドを入力します。

## switchport voice vlan

ポートに音声 VLAN を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **switchport voice vlan** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport voice vlan {vlan-id | dot1p | none | untagged | name vlan_name}
no switchport voice vlan
```

### 構文の説明

<b>vlan-id</b>	音声トラフィックに使用する VLAN。指定できる範囲は 1～4094 です。デフォルトでは、Cisco IP Phone は IEEE 802.1Q プライオリティ 5 を使用して音声トラフィックを転送します。
<b>dot1p</b>	IEEE 802.1p プライオリティ タギングおよび VLAN 0（ネイティブ VLAN）を使用するように電話機を設定します。デフォルトでは、Cisco IP Phone は IEEE 802.1p プライオリティ 5 を使用して音声トラフィックを転送します。
<b>none</b>	音声 VLAN に関して IP Phone に指示しません。IP Phone のキーパッドから入力された設定を使用します。
<b>untagged</b>	タグなしの音声トラフィックを送信するように IP Phone を設定します。これが IP Phone のデフォルト設定になります。
<b>name vlan_name</b>	（任意）音声トラフィックに使用する VLAN 名を指定します。最大 128 文字を入力できます。

### コマンド デフォルト

デフォルトでは、IP Phone を自動設定しません（**none**）。

デフォルトでは、IP Phone はフレームにタグを付けません。

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

レイヤ 2 アクセス ポート上で音声 VLAN を設定する必要があります。

デバイスの Cisco IP 電話に接続しているスイッチポート上の Cisco Discovery Protocol（CDP）をイネーブルにし、Cisco IP 電話に設定情報を送信する必要があります。デフォルトでは、CDP はインターフェイス上でグローバルにイネーブルです。

音声 VLAN をイネーブルにする前に、**mls qos** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力してスイッチ上で Quality of Service（QoS）をイネーブルに設定し、さらに **mls qos trust cos** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力してポートの信頼状態を **trust** に設定しておくことを推奨します。

VLAN ID を入力すると、IP Phone は IEEE 802.1Q フレームの音声トラフィックを指定された VLAN ID タグ付きで転送します。デバイスは IEEE 802.1Q 音声トラフィックを音声 VLAN に入れます。

**dot1p**、**none**、または **untagged** を選択した場合、デバイスは指定の音声トラフィックをアクセス VLAN に入れます。

すべての設定で、音声トラフィックはレイヤ 2 の IP precedence 値を運びます。音声トラフィックのデフォルトは 5 です。

音声 VLAN が設定されたインターフェイス上でポートセキュリティをイネーブルにする場合は、ポートの最大セキュアアドレス許容数を 2 に設定します。ポートを Cisco IP Phone に接続する場合は、IP Phone に MAC アドレスが 1 つ必要です。Cisco IP Phone のアドレスは音声 VLAN 上で学習されますが、アクセス VLAN 上では学習されません。1 台の PC を Cisco IP Phone に接続する場合、MAC アドレスの追加は必要ありません。2 台以上の PC を Cisco IP Phone に接続する場合、各 PC に 1 つ、さらに Cisco IP Phone に 1 つ割り当てるよう十分なセキュアアドレスを設定する必要があります。

アクセス VLAN で任意のポートセキュリティタイプがイネーブルにされた場合、音声 VLAN でダイナミックポートセキュリティは自動的にイネーブルになります。

音声 VLAN には、スタティックセキュア MAC アドレスを設定できません。

音声 VLAN を設定すると、PortFast 機能が自動的にイネーブルになります。音声 VLAN をディセーブルにしても、PortFast 機能は自動的にディセーブルになりません。

次の例では、最初に VLANID と VLAN 名を対応させて、その情報を VLAN データベースに格納し、その後、アクセスモードにあるインターフェイス上の VLAN を設定します（名前を使用）。設定を確認するには、特権 EXEC コマンドで **show interfaces interface-id switchport** を入力して、Voice VLAN: 行の情報を調べます。

パート 1 - VLAN データベースに入力する

```
Device# configure terminal
Device(config)# vlan 55
Device(config-vlan)# name test
Device(config-vlan)# end
Device#
```

パート 2 - VLAN データベースを確認する

```
Device# show vlan id 55
VLAN Name Status Ports
-----
55 test active
VLAN Type SAID MTU Parent RingNo BridgeNo Stp BrdgMode Trans1 Trans2
-----
55 enet 100055 1500 - - - - - 0 0
Remote SPAN VLAN
-----
Disabled
Primary Secondary Type Ports
-----
```

パート 3 - VLAN 名を使用して VLAN をインターフェイスに割り当てる

```

Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet3/1/1
Device(config-if)# switchport mode access
Device(config-if)# switchport voice vlan name test
Device(config-if)# end
Device#

```

#### パート 4 - 設定を確認する

```

Device# show running-config
interface gigabitethernet3/1/1
Building configuration...
Current configuration : 113 bytes
!
interface GigabitEthernet3/1/1
switchport voice vlan 55
switchport mode access
Switch#

```

#### パート 5 - インターフェイス スイッチポートでも確認できる

```

Device# show interface GigabitEthernet3/1/1 switchport
Name: Gi3/1/1
Switchport: Enabled
Administrative Mode: static access
Operational Mode: static access
Administrative Trunking Encapsulation: dot1q
Operational Trunking Encapsulation: native
Negotiation of Trunking: Off
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
Administrative Native VLAN tagging: enabled
Voice VLAN: 55 (test)
Administrative private-vlan host-association: none
Administrative private-vlan mapping: none
Administrative private-vlan trunk native VLAN: none
Administrative private-vlan trunk Native VLAN tagging: enabled
Administrative private-vlan trunk encapsulation: dot1q
Administrative private-vlan trunk normal VLANs: none
Administrative private-vlan trunk associations: none
Administrative private-vlan trunk mappings: none
Operational private-vlan: none
Trunking VLANs Enabled: ALL
Pruning VLANs Enabled: 2-1001
Capture Mode Disabled
Capture VLANs Allowed: ALL
Unknown unicast blocked: disabled
Unknown multicast blocked: disabled
Appliance trust: none
Device#

```



# vlan

VLAN を追加して、VLAN コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **vlan** コマンドを使用します。VLAN を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
vlan vlan-id
no vlan vlan-id
```

構文の説明	<i>vlan-id</i> 追加および設定する VLAN の ID。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。1 つの VLAN ID、それぞれをカンマで区切った一連の VLAN ID、またはハイフンを間に挿入した VLAN ID の範囲を入力できます。
コマンド デフォルト	なし
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション
コマンド履歴	リリース <span style="float: right;">変更内容</span> Cisco IOS Release 15.2(7)E1 このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** 最大 256 の VLAN がサポートされます。

通常範囲の VLAN (VLAN ID 1 ~ 1005) や拡張範囲 VLAN (VLAN ID 1006 ~ 4094) を追加するには、**vlan vlan-id** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。通常範囲の VLAN の設定情報は常に VLAN データベースに保存されます。この情報を表示するには、**show vlan** 特権 EXEC コマンドを入力します。VTP バージョン 1 および 2 を使用する場合、拡張範囲 VLAN は VTP によって認識されず、VLAN データベースに追加されません。VTP バージョン 1 およびバージョン 2 を使用する場合は、拡張範囲 VLAN を追加する前に、**vtp transparent** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してデバイスを VTP トランスペアレントモードにする必要があります。VTP モードがトランスペアレントである場合、VTP モードとドメイン名およびすべての VLAN 設定は実行コンフィギュレーションに保存されますが、この情報をデバイスのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存することもできます。

VTP バージョン 3 は拡張範囲 VLAN の伝播をサポートしているため、それらを VTP サーバまたはクライアント モードで作成できます。VTP バージョン 1 および 2 で伝播する範囲は、VLAN 1 ~ 1005 だけです。

VLAN および VTP 設定をスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存してデバイスをリブートすると、設定は次のように選択されます。

- スタートアップ コンフィギュレーションおよび VLAN データベース内の VTP モードがトランスペアレントであり、VLAN データベースとスタートアップ コンフィギュレーション ファイルの VTP ドメイン名が一致する場合は、VLAN データベースが無視され (クリアされ)、スタートアップ コンフィギュレーション ファイル内の VTP および VLAN 設定

が使用されます。VLAN データベース内の VLAN データベース リビジョン番号は変更されません。

- スタートアップ コンフィギュレーション内の VTP モードまたはドメイン名が VLAN データベースと一致しない場合、VLAN ID 1～1005 のドメイン名、VTP モード、および VTP 設定には VLAN データベース情報が使用されます。

VTP バージョン 1 およびバージョン 2 では、デバイスが VTP トランスペアレントモードではない場合に拡張範囲 VLAN を作成しようとする、VLAN は拒否され、エラーメッセージが表示されます。

無効な VLAN ID を入力すると、エラーメッセージが表示され、VLAN コンフィギュレーションモードを開始できません。

VLAN ID を指定して **vlan** コマンドを入力すると、VLAN コンフィギュレーションモードがイネーブルになります。既存の VLAN の VLAN ID を入力すると、新しい VLAN は作成されませんが、その VLAN の VLAN パラメータを変更できます。指定された VLAN は、VLAN コンフィギュレーションモードを終了したときに追加または変更されます。(VLAN 1～1005 の) **shutdown** コマンドだけがただちに有効になります。



- (注) すべてのコマンドが表示されますが、拡張範囲 VLAN でサポートされる VLAN コンフィギュレーション コマンドは **remote-span** だけです。拡張範囲 VLAN の場合、他のすべての特性はデフォルトステートのままにしておく必要があります。

次のコンフィギュレーション コマンドを VLAN コンフィギュレーションモードで利用できます。各コマンドの **no** 形式を使用すると、特性がそのデフォルトステートに戻ります。

- **are are-number** : この VLAN の全ルートエクスプローラ (ARE) ホップの最大数を定義します。このキーワードは、TrCRF VLAN だけに適用されます。指定できる範囲は 0～13 です。デフォルト値は 7 です。値が入力されない場合、最大数は 0 であると見なされます。
- **backupcrf** : バックアップ CRF モードを指定します。このキーワードは、TrCRF VLAN だけに適用されます。
  - **enable** : この VLAN のバックアップ CRF モード。
  - **disable** : この VLAN のバックアップ CRF モード (デフォルト)。
- **bridge {bridge-number | type}** : 論理分散ソースルーティングブリッジ、つまり、FDDI-NET、トークンリング NET、および TrBRF VLAN 内で親 VLAN としてこの VLAN を持つすべての論理リングと相互接続するブリッジを指定します。指定できる範囲は 0～15 です。FDDI-NET、TrBRF、およびトークンリング NET VLAN については、デフォルトのブリッジ番号は 0 (ソースルーティングブリッジなし) です。 **type** キーワードは、TrCRF VLAN だけに適用され、次のうちのいずれかです。
  - **srb** : ソースルートブリッジング。

- **srt** : (ソースルート トランスペアレント) ブリッジング VLAN
- **exit** : 変更を適用し、VLAN データベース リビジョン番号 (VLAN 1 ~ 1005) を増加させ、VLAN コンフィギュレーション モードを終了します。
- **media** : VLAN メディア タイプを定義します。タイプは次のいずれかになります。



(注) デバイスがサポートするのは、イーサネットポートだけです。FDDI およびトークンリングメディア固有の特性は、別のデバイスに対する VLAN Trunking Protocol (VTP) グローバルアドバタイズメントに限って設定します。これらの VLAN はローカルに停止されます。

- **ethernet** : イーサネット メディア タイプ (デフォルト)。
- **fd-net** : FDDI ネットワーク エンティティ タイトル (NET) メディア タイプ。
- **fddi** : FDDI メディア タイプ。
- **tokenring** : VTP v2 モードがディセーブルの場合は、トークンリング メディア タイプ。VTP バージョン 2 (v) モードがイネーブルの場合は、TrCRF。
- **tr-net** : VTP v2 モードがディセーブルの場合は、トークンリング ネットワーク エンティティ タイトル (NET) メディア タイプ。VTP v2 モードがイネーブルの場合は、TrBRF メディア タイプ。

さまざまなメディアタイプで有効なコマンドおよび構文については、下の表を参照してください。

- **mtu mtu-size** : 最大伝送単位 (MTU) (バイト単位のパケットサイズ) を指定します。指定できる範囲は 576 ~ 18190 です。デフォルトは 1500 バイトです。
- **name vlan-name** : 管理ドメイン内で一意である 1 ~ 32 文字の ASCII 文字列で VLAN に名前を付けます。デフォルトは VLANxxxx です。ここで、xxxx は VLAN ID 番号と同じ 4 桁の数字 (先行ゼロを含む) です。
- **no** : コマンドを無効にするか、またはデフォルト設定に戻します。
- **parent parent-vlan-id** : 既存の FDDI、トークンリング、または TrCRF VLAN の親 VLAN を指定しますこのパラメータは、TrCRF が所属する TrBRF を識別するもので、TrCRF を定義するときが必要です。指定できる範囲は 0 ~ 1005 です。デフォルトの親 VLAN ID は、FDDI およびトークンリング VLAN では 0 (親 VLAN なし) です。トークンリングおよび TrCRF VLAN の両方で、親 VLAN ID はデータベースにすでに存在していて、トークンリング NET または TrBRF VLAN と関連付けられている必要があります。
- **ring ring-number** : FDDI、トークンリング、または TrCRF VLAN の論理リングを定義します。指定できる範囲は 1 ~ 4095 です。トークンリング VLAN のデフォルト値は 0 です。FDDI VLAN には、デフォルト設定はありません。

- **said** *said-value* : IEEE 802.10に記載されているセキュリティアソシエーションID (SAID) を指定します。指定できるIDは、1～4294967294です。この数字は、管理ドメイン内で一意である必要があります。デフォルト値は、100000にVLAN ID番号を加算した値です。
- **shutdown** : VLAN上でVLANスイッチングをシャットダウンします。このコマンドはただちに有効になります。他のコマンドは、VLANコンフィギュレーションモードを終了したときに有効になります。
- **state** : VLANの状態を指定します。
  - **active** VLANが稼働中であることを意味します (デフォルト)。
  - **suspend** VLANが停止していることを意味します。停止しているVLANはパケットを通過させません。
- **ste** *ste-number* : スパニングツリーエクスプローラ (STE) ホップの最大数を定義します。このキーワードは、TrCRF VLANだけに適用されます。指定できる範囲は0～13です。デフォルト値は7です。
- **stp type** : FDDI-NET、トークンリングNET、またはTrBRF VLANのスパニングツリータイプを定義します。FDDI-NET VLANの場合、デフォルトのSTPタイプは **ieee** です。トークンリングNET VLANの場合、デフォルトのSTPタイプは **ibm** です。FDDIおよびトークンリングVLANの場合、デフォルトのタイプは指定されていません。
  - **ieee** : ソースルートトランスペアレント (SRT) ブリッジングを実行しているIEEEイーサネットSTP。
  - **ibm** : ソースルートブリッジング (SRB) を実行しているIBMSTP。
  - **auto** : ソースルートトランスペアレント (SRT) ブリッジング (IEEE) およびソースルートブリッジング (IBM) の組み合わせを実行しているSTP。
- **tb-vlan1** *tb-vlan1-id* および **tb-vlan2** *tb-vlan2-id* : このVLANにトランスレーショナルブリッジングが行われている1番めおよび2番めのVLANを指定します。トランスレーショナルVLANは、たとえばFDDIまたはトークンリングをイーサネットに変換します。指定できる範囲は0～1005です。値が指定されないと、0 (トランスレーショナルブリッジングなし) と見なされます。

表 4: さまざまなメディアタイプで指定できるコマンドと構文

メディアタイプ	指定できる構文
イーサネット	<b>name</b> <i>vlan-name</i> , <b>media ethernet</b> , <b>state</b> { <b>suspend</b>   <b>active</b> }, <b>said</b> <i>said-value</i> , <b>mtu</b> <i>mtu-size</i> , <b>remote-span</b> , <b>tb-vlan1</b> <i>tb-vlan1-id</i> , <b>tb-vlan2</b> <i>tb-vlan2-id</i>

メディアタイプ	指定できる構文
FDDI	<b>name</b> <i>vlan-name</i> , <b>media</b> <i>fddi</i> , <b>state</b> { <i>suspend</i>   <i>active</i> }, <b>said</b> <i>said-value</i> , <b>mtu</b> <i>mtu-size</i> , <b>ring</b> <i>ring-number</i> , <b>parent</b> <i>parent-vlan-id</i> , <b>tb-vlan1</b> <i>tb-vlan1-id</i> , <b>tb-vlan2</b> <i>tb-vlan2-id</i>
FDDI-NET	<b>name</b> <i>vlan-name</i> , <b>media</b> <i>fd-net</i> , <b>state</b> { <i>suspend</i>   <i>active</i> }, <b>said</b> <i>said-value</i> , <b>mtu</b> <i>mtu-size</i> , <b>bridge</b> <i>bridge-number</i> , <b>stp type</b> { <i>ieee</i>   <i>ibm</i>   <i>auto</i> }, <b>tb-vlan1</b> <i>tb-vlan1-id</i> , <b>tb-vlan2</b> <i>tb-vlan2-id</i>  VTP v2 モードがディセーブルの場合は、 <b>stp type</b> を <i>auto</i> . に設定しないでください
Token Ring	VTP v1 モードはイネーブルです。  <b>name</b> <i>vlan-name</i> , <b>media</b> <i>tokenring</i> , <b>state</b> { <i>suspend</i>   <i>active</i> }, <b>said</b> <i>said-value</i> , <b>mtu</b> <i>mtu-size</i> , <b>ring</b> <i>ring-number</i> , <b>parent</b> <i>parent-vlan-id</i> , <b>tb-vlan1</b> <i>tb-vlan1-id</i> , <b>tb-vlan2</b> <i>tb-vlan2-id</i>
トークンリング コンセントレータリレー機能 (TrCRF)	VTP v2 モードはイネーブルです。  <b>name</b> <i>vlan-name</i> , <b>media</b> <i>tokenring</i> , <b>state</b> { <i>suspend</i>   <i>active</i> }, <b>said</b> <i>said-value</i> , <b>mtu</b> <i>mtu-size</i> , <b>ring</b> <i>ring-number</i> , <b>parent</b> <i>parent-vlan-id</i> , <b>bridge type</b> { <i>srb</i>   <i>srt</i> }, <b>are</b> <i>are-number</i> , <b>ste</b> <i>ste-number</i> , <b>backupcrf</b> { <i>enable</i>   <i>disable</i> }, <b>tb-vlan1</b> <i>tb-vlan1-id</i> , <b>tb-vlan2</b> <i>tb-vlan2-id</i>
トークンリング NET	VTP v1 モードはイネーブルです。  <b>name</b> <i>vlan-name</i> , <b>media</b> <i>tr-net</i> , <b>state</b> { <i>suspend</i>   <i>active</i> }, <b>said</b> <i>said-value</i> , <b>mtu</b> <i>mtu-size</i> , <b>bridge</b> <i>bridge-number</i> , <b>stp type</b> { <i>ieee</i>   <i>ibm</i> }, <b>tb-vlan1</b> <i>tb-vlan1-id</i> , <b>tb-vlan2</b> <i>tb-vlan2-id</i>
トークンリングブリッジリレー機能 (TrBRF)	VTP v2 モードはイネーブルです。  <b>name</b> <i>vlan-name</i> , <b>media</b> <i>tr-net</i> , <b>state</b> { <i>suspend</i>   <i>active</i> }, <b>said</b> <i>said-value</i> , <b>mtu</b> <i>mtu-size</i> , <b>bridge</b> <i>bridge-number</i> , <b>stp type</b> { <i>ieee</i>   <i>ibm</i>   <i>auto</i> }, <b>tb-vlan1</b> <i>tb-vlan1-id</i> , <b>tb-vlan2</b> <i>tb-vlan2-id</i>

次の表に、VLAN の設定ルールを示します。

表 5: VLAN 設定ルール

設定	ルール
VTP v2 モードがイネーブルで、TrCRF VLAN メディア タイプを設定している場合	<p>すでにデータベースに存在している TrBRF の親 VLAN ID を指定します。</p> <p>リング番号を指定します。このフィールドを空白のままにしないでください。</p> <p>TrCRF VLAN に同じ親 VLAN ID がある場合には一意のリング番号を指定します。1つのバックアップ コンセントレータ リレー機能 (CRF) だけをイネーブルにすることができます。</p>
VTP v2 モードがイネーブルで、TrCRF メディア タイプ以外の VLAN を設定している場合	バックアップ CRF を指定しないでください。
VTP v2 モードがイネーブルで、TrBRF VLAN メディア タイプを設定している場合	ブリッジ番号を指定します。このフィールドを空白のままにしないでください。
VTP v1 モードがイネーブルの場合	<p>VLAN の STP タイプを auto に設定しないでください。</p> <p>このルールは、イーサネット、FDDI、FDDI-NET、トークンリング、およびトークンリング NET VLAN に適用されます。</p>

設定	ルール
<p>トランスレーショナルブリッジングが必要な VLAN を追加する場合（値は 0 に設定されない）</p>	<p>使用されるトランスレーショナルブリッジング VLAN ID は、すでにデータベースに存在している必要があります。</p> <p>（たとえば、イーサネットは FDDI をポイントし、FDDI はイーサネットをポイントするというように）コンフィギュレーションがポイントしているトランスレーショナルブリッジング VLAN ID にも、トランスレーショナルブリッジングパラメータの 1 つに元の VLAN へのポインタが含まれている必要があります。</p> <p>コンフィギュレーションがポイントするトランスレーショナルブリッジング VLAN ID は、（たとえば、イーサネットはトークンリングをポイントすることができるというように）元の VLAN とは異なるメディアタイプである必要があります。</p> <p>両方のトランスレーショナルブリッジング VLAN ID が設定されている場合、（たとえば、イーサネットは FDDI およびトークンリングをポイントすることができるというように）これらの VLAN は異なるメディアタイプである必要があります。</p>

次の例では、デフォルトのメディア特性を持つイーサネット VLAN を追加する方法を示します。デフォルトには VLAN xxxx の *vlan-name* が含まれています。ここで、xxxx は VLAN ID 番号と同じ 4 桁の数字（先行ゼロを含む）です。デフォルトの *media* は *ethernet* です。state は *active* です。デフォルトの *said-value* は、100000 に VLAN ID を加算した値です。mtu-size 変数は 1500、stp-type は *ieee* です。exit VLAN コンフィギュレーションコマンドを入力した場合、VLAN がまだ存在していなかった場合にはこれが追加されます。そうでない場合、このコマンドは何も作用しません。

次に、新しい VLAN をすべてデフォルトの特性で作成し、VLAN コンフィギュレーションモードを開始する例を示します。

```
Device(config)# vlan 200
Device(config-vlan)# exit
Device(config)#
```

次に、新しい拡張範囲 VLAN をすべてデフォルトの特性で作成して、VLAN コンフィギュレーションモードを開始し、新しい VLAN をデバイスのスタートアップコンフィギュレーションファイルに保存する例を示します。

```
Device(config)# vtp mode transparent
Device(config)# vlan 2000
Device(config-vlan)# end
```

```
Device# copy running-config startup config
```

設定を確認するには、**show vlan** 特権 EXEC コマンドを入力します。



## vtp (グローバル コンフィギュレーション)

VLAN トランッキングプロトコル (VTP) 設定の特性を設定するか、または変更するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **vtp** コマンドを使用します。この設定を削除したりデフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
vtp {domain domain-name | file filename | interface interface-name [only] | mode {client | off | server | transparent} [{mst | unknown | vlan}] | password password [{hidden | secret}] | pruning | version number}
no vtp {file | interface | mode [{client | off | server | transparent}] [{mst | unknown | vlan}] | password | pruning | version}
```

### 構文の説明

<b>domain</b> <i>domain-name</i>	VTP ドメイン名をスイッチの VTP 管理ドメインを識別する 1 ~ 32 文字の ASCII 文字列で指定します。ドメイン名では大文字と小文字が区別されます。
<b>file</b> <i>filename</i>	VTP VLAN 設定が保存されている Cisco IOS ファイルシステム ファイルを指定します。
<b>interface</b> <i>interface-name</i>	このデバイスで更新された VTP ID を提供するインターフェイスの名前を指定します。
<b>only</b>	(任意) VTP IP アップデータとしてこのインターフェイスの IP アドレスだけを使用します。
<b>mode</b>	VTP デバイス モードをクライアント、サーバ、またはトランスペアレントに指定します。
<b>client</b>	スイッチを VTP クライアントモードにします。VTP クライアントモードのスイッチは VTP に対してイネーブルであり、アドバタイズを送信できますが、VLAN 設定を格納するために必要な不揮発性メモリがありません。VTP クライアントでは、VLAN を設定できません。VLAN は、ドメインに含まれる、他のサーバモードのスイッチで設定します。VTP クライアントが起動すると、VTP クライアントはその VLAN データベースを初期化するアドバタイズを受信するまで、VTP アドバタイズを送信しません。
<b>off</b>	スイッチを VTP オフモードにします。VTP オフモードのスイッチは、トランクポート上で VTP アドバタイズメントを転送しないことを除いて、VTP トランスペアレントデバイスと同様に機能します。
<b>server</b>	スイッチを VTP サーバモードにします。VTP サーバモードのスイッチは VTP に対してイネーブルであり、アドバタイズを送信します。スイッチでは VLAN を設定できます。スイッチは、再起動後に、不揮発性メモリから現在の VTP データベース内のすべての VLAN 情報を回復できます。

<b>transparent</b>	<p>スイッチを VTP トランスペアレントモードにします。VTP トランスペアレントモードのスイッチは、VTP に対してディセーブルであり、アドバタイズの送信や、他のデバイスから送信されたアドバタイズからの学習を行いません。また、ネットワーク内の他のデバイスの VLAN 設定に影響を与えることはありません。スイッチは VTP アドバタイズを受信し、アドバタイズを受信したトランク ポートを除くすべてのトランク ポートにこれを転送します。</p> <p>VTP モードがトランスペアレントである場合、モードおよびドメイン名はデバイスの実行コンフィギュレーションファイルに保存されます。この情報をスイッチのスタートアップ コンフィギュレーションファイルに保存するには、<b>copy running-config startup config</b> 特権 EXEC コマンドを入力します。</p>
<b>mst</b>	(任意) マルチスパンニングツリー (MST) VTP データベース (VTP バージョン 3 に限る) にモードを設定します。
<b>unknown</b>	(任意) 未知の VTP データベース (VTP バージョン 3 に限る) にモードを設定します。
<b>vlan</b>	(任意) VLAN VTP データベースにモードを設定します。これがデフォルトです (VTP バージョン 3 に限る)。
<b>password password</b>	VTP アドバタイズメントで送信され、受信 VTP アドバタイズメントを確認するための MD5 ダイジェスト計算で使用される 16 バイトの秘密値を生成するための管理ドメインパスワードを設定します。パスワードは、1 ~ 32 文字の ASCII 文字列です。パスワードでは大文字と小文字が区別されます。
<b>hidden</b>	(任意) パスワード文字列から生成されたキーが VLAN データベース ファイルに保存されることを指定します。 <b>hidden</b> キーワードを指定しない場合、パスワード文字列はクリアテキストに保存されます。 <b>hidden</b> パスワードを入力した場合、そのパスワードを再入力し、ドメイン内でコマンドを実行する必要があります。このキーワードは、VTP バージョン 3 だけでサポートされています。
<b>secret</b>	(任意) ユーザがパスワードの秘密キーを直接設定できるようにします (VTP バージョン 3 に限る)。
<b>pruning</b>	デバイス上で VTP プルーニングをイネーブルにします。
<b>version number</b>	VTP バージョンをバージョン 1、バージョン 2、またはバージョン 3 に設定します。

#### コマンド デフォルト

デフォルトのファイル名は *flash:vlan.dat* です。

デフォルト モードはサーバ モードで、デフォルトのデータベースは VLAN です。

VTP バージョン 3 では、MST データベースのデフォルト モードはトランスペアレントです。

ドメイン名またはパスワードは定義されていません。

パスワードは設定されていません。  
 プルーニングはディセーブルです。  
 デフォルトのバージョンはバージョン 1 です。

コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション
---------	-------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** VTP バージョン 3 がサポートされるのは、スイッチで LAN Base イメージが実行されている場合のみです。

VTP モード、ドメイン名、および VLAN 設定をデバイスのスタートアップ コンフィギュレーションファイルに保存して、デバイスを再起動すると、VTP および VLAN 設定は次の条件によって選択されます。

- スタートアップ コンフィギュレーションおよび VLAN データベース内の VTP モードがトランスペアレントであり、VLAN データベースとスタートアップ コンフィギュレーションファイルの VTP ドメイン名が一致する場合は、VLAN データベースが無視され (クリアされ)、スタートアップ コンフィギュレーションファイル内の VTP および VLAN 設定が使用されます。VLAN データベース内の VLAN データベース リビジョン番号は変更されません。
- スタートアップ コンフィギュレーション内の VTP モードまたはドメイン名が VLAN データベースと一致しない場合、VLAN ID 1 ~ 1005 のドメイン名、VTP モード、および VTP 設定には VLAN データベース情報が使用されます。

新規データベースをロードするのに **vtp file filename** を使用することはできません。これは、既存のデータベースが保存されているファイルの名前を変更するだけです。

VTP ドメイン名を設定するときには、次の注意事項に従ってください。

- ドメイン名を設定するまで、デバイスは非管理ドメインステートの状態です。非管理ドメインステートの間は、ローカル VLAN 設定に変更が生じて、デバイスは VTP アドバタイズメントを送信しません。デバイスは、トランキングを行っているポートで最初の VTP サマリーパケットを受信した後、または **vtp domain** コマンドでドメイン名を設定した後で、非管理ドメインステートから抜け出します。装置がサマリーパケットからドメインを受け取る場合は、コンフィギュレーションリビジョン番号が 0 にリセットされます。デバイスが非管理ドメインステートから抜け出したあと、NVRAM をクリアしてソフトウェアをリロードするまで、スイッチがこのステートに再び入るよう設定することはできません。
- ドメイン名では、大文字と小文字が区別されます。
- 設定したドメイン名は、削除できません。別のドメインに再度割り当てることがありません。

VTP モードを設定するときには、次の注意事項に従ってください。

- **no vtp mode** コマンドを使用すると、デバイスを VTP サーバモードに戻すことができません。
- **vtp mode server** コマンドは、デバイスがクライアントモードまたはトランスペアレントモードでない場合にエラーを返さないことを除けば、**no vtp mode** と同じです。
- 受信デバイスがクライアントモードである場合、クライアントデバイスはその設定を変更して、サーバの設定をコピーします。クライアントモードのデバイスがある場合には、必ずサーバモードのデバイスですべての VTP または VLAN 設定変更を行ってください。サーバモードのデバイスの方が、保持している VTP コンフィギュレーションリビジョン番号が大きいためです。受信デバイスがサーバモードまたはトランスペアレントモードである場合、そのデバイスの設定は変更されません。
- トランスペアレントモードのデバイスは、VTP に参加しません。トランスペアレントモードのデバイスで VTP または VLAN 設定の変更を行った場合、その変更はネットワーク内の他のデバイスには伝播されません。
- サーバモードのデバイスで VTP または VLAN 設定を変更した場合、その変更は同じ VTP ドメインのすべてのデバイスに伝播されます。
- **vtp mode transparent** コマンドは、ドメインの VTP をディセーブルにしますが、デバイスからドメインを削除しません。
- VTP バージョン 1 および 2 では、拡張範囲 VLAN を追加したり、VTP および VLAN 情報を実行コンフィギュレーションファイルに保存したりする場合には、VTP モードはトランスペアレントに設定してください。VTP は拡張範囲 VLAN をクライアントおよびサーバモードでサポートし、VLAN データベースに保存します。
- VTP バージョン 1 および 2 では、拡張範囲 VLAN がデバイスで設定され、VTP モードをサーバまたはクライアントに設定しようとした場合、エラーメッセージが表示され、その設定は許可されません。VTP モードは、VTP バージョン 3 で拡張 VLAN を使用することにより変更できます。
- 拡張範囲 VLAN を追加したり、VTP および VLAN 情報を実行コンフィギュレーションファイルに保存したりする場合には、VTP モードはトランスペアレントに設定してください。
- ダイナミック VLAN 作成がディセーブルの場合、VTP に設定できるモードは、サーバモードまたはクライアントモードのいずれかに限ります。
- **vtp mode off** コマンドを使用すると、デバイスをオフに設定します。**no vtp mode off** コマンドを使用すると、デバイスを VTP サーバモードにリセットします。

VTP パスワードを設定するときには、次の注意事項に従ってください。

- パスワードは大文字と小文字が区別されます。パスワードは、同じドメイン内のすべてのデバイスで一致している必要があります。

- デバイスをパスワードが設定されていない状態に戻す場合は、このコマンドの **no vtp password** 形式を使用します。
- **hidden** および **secret** キーワードは、VTP バージョン 3 だけでサポートされています。VTP バージョン 2 から VTP バージョン 3 に変換する場合、変換前に **hidden** または **secret** キーワードを削除する必要があります。

VTP プルーニングを設定するときには、次の注意事項に従ってください。

- VTP プルーニングは、プルーニング適格 VLAN に所属するステーションがない場合、その VLAN の情報を VTP 更新から削除します。
- VTP サーバでプルーニングをイネーブルにすると、プルーニングは VLAN ID 1 ~ 1005 の管理ドメイン全体でイネーブルになります。
- プルーニング適格リストに指定された VLAN だけが、プルーニングの対象になります。
- プルーニングは、VTP バージョン 1 およびバージョン 2 でサポートされています。

VTP バージョンを設定するときには、次の注意事項に従ってください。

- バージョン 2 (v2) モード ステートを切り替えると、ある一定のデフォルト VLAN のパラメータが変更されます。
- 各 VTP デバイスは他のすべての VTP デバイスの機能を自動的に検出します。VTP バージョン 2 を使用するには、ネットワーク内のすべての VTP デバイスでバージョン 2 がサポートされている必要があります。そうでない場合、VTP バージョン 1 モードで稼働するように設定する必要があります。
- ドメイン内のすべてのデバイスが VTP バージョン 2 対応である場合、1 つのデバイスでバージョン 2 を設定すれば、バージョン番号は、VTP ドメイン内の他のバージョン 2 対応デバイスに伝播されます。
- トークンリング環境で VTP を使用している場合、VTP バージョン 2 もイネーブルである必要があります。
- Token Ring Bridge Relay Function (TrBRF) または Token Ring Concentrator Relay Function (TrCRF) VLAN メディア タイプを設定している場合には、バージョン 2 を使用してください。
- トークンリングまたはトークンリング NET VLAN メディア タイプを設定している場合には、バージョン 1 を使用してください。
- VTP バージョン 3 では、VLAN データベース情報だけでなく、すべてのデータベース VTP 情報がその VTP ドメイン全体に伝播します。
- VTP バージョン 3 の 2 つのリージョンが、VTP バージョン 1 または VTP バージョン 2 のリージョン経由で通信できるのは、トランスペアレントモードの場合に限られます。

デバイス コンフィギュレーション ファイルにパスワード、プルーニング、およびバージョン コンフィギュレーションを保存することはできません。

次の例では、VTP コンフィギュレーションストレージのファイル名を `vtpfilename` に変更する方法を示します。

```
Device(config)# vtp file vtpfilename
```

次の例では、デバイスストレージのファイル名をクリアする方法を示します。

```
Device(config)# no vtp file vtpconfig  
Clearing device storage filename.
```

次の例では、このデバイスの VTP アップデータ ID を提供するインターフェイスの名前を指定する方法を示します。

```
Device(config)# vtp interface gigabitethernet
```

次の例では、デバイスの管理ドメインを設定する方法を示します。

```
Device(config)# vtp domain OurDomainName
```

次の例では、デバイスを VTP トランスペアレントモードにする方法を示します。

```
Device(config)# vtp mode transparent
```

次の例では、VTP ドメインパスワードを設定する方法を示します。

```
Device(config)# vtp password ThisIsOurDomainsPassword
```

次の例では、VLAN データベースでのプルーニングをイネーブルにする方法を示します。

```
Device(config)# vtp pruning  
Pruning switched ON
```

次の例では、VLAN データベースのバージョン 2 モードをイネーブルにする方法を示します。

```
Device(config)# vtp version 2
```

設定を確認するには、`show vtp status` 特権 EXEC コマンドを入力します。

## vtp (インターフェイス コンフィギュレーション)

ポート単位で VLAN Trunking Protocol (VTP) をイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **vtp** コマンドを使用します。インターフェイスで VTP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**vtp**  
**no vtp**

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

なし

### コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、トランキング モードのインターフェイスでのみ入力してください。

このコマンドは、デバイスが LAN Base イメージ および VTP バージョン 3 を実行している場合にのみサポートされます。

次の例では、インターフェイス上で VTP をイネーブルにする方法を示します。

```
Device(config-if)# vtp
```

次の例では、インターフェイス上で VTP をディセーブルにする方法を示します。

```
Device(config-if)# no vtp
```

## vtp primary

デバイスを VLAN Trunking Protocol (VTP) プライマリサーバとして設定するには、特権 EXEC モードで **vtp primary** コマンドを使用します。

**vtp primary** [{mst | vlan}] [force]

構文の説明	構文	説明
	<b>mst</b>	(任意) デバイスをマルチスパンニングツリー (MST) 機能のプライマリ VTP サーバとして設定します。
	<b>vlan</b>	(任意) デバイスを VLAN のプライマリ VTP サーバとして設定します。
	<b>force</b>	(任意) プライマリサーバを設定するときにデバイスが競合するデバイスをチェックしないように設定します。

コマンド デフォルト デバイスは VTP セカンダリサーバです。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS Release 15.2(7)E1	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** VTP プライマリ サーバはデータベース情報をアップデートし、システム内のすべてのデバイスによって行われるアップデートを送信します。VTP セカンダリ サーバは、プライマリ サーバから受信したアップデートされた VTP のコンフィギュレーションを NVRAM にバックアップすることだけができます。

デフォルトでは、すべてのデバイスはセカンダリ サーバとして起動します。プライマリ サーバのステータスは、管理者がドメイン内のテイクオーバーメッセージを発行する場合のデータベースアップデートのためだけに必要です。プライマリ サーバなしで実用 VTP ドメインを持つことができます。

デバイスがリロードするかドメインパラメータが変更された場合、プライマリ サーバのステータスは失われます。



(注) このコマンドは、デバイスが VTP バージョン 3 を実行している場合にのみサポートされます。

次の例では、デバイスを VLAN のプライマリ VTP サーバとして設定する方法を示します。



```
Device# vtp primary vlan  
Setting device to VTP TRANSPARENT mode.
```

設定を確認するには、**show vtp status** 特権 EXEC コマンドを入力します。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。